

農学委員会土壌科学分科会・Soil Health 小委員会
(第 26 期・第 3 回) 会議 議事要録

1. 日時：2025 年 10 月 10 日（金）17:00-18:40

2. 出席者：矢内純太、波多野隆介、金子信博、当真要、西岡加名恵、川嶋四郎、藤井一至、渡辺京子、信濃卓郎、犬伏和之、山口紀子、森圭子、小崎隆、竹山春子、小松崎将一、水田勝利

欠席：川東正幸、若林正吉

3. 場所：オンライン（Zoom）による開催

4. 西岡加名恵委員による講演および意見交換

1) 「学校における「土の教育」の可能性」に関する講演

・学校現場で土の教育を深化させていくためには、学習指導要領に土に関する記述を増やすか、「総合学習」「探求学習」でトピックスとして土を選択し教えてもらうか 2 つの戦略があるが、現在は特に後者の可能性が高まっていること、様々な先行事例が各地にあってその情報が共有されれば広く実践してもらいやすいこと、京都大学大学院教育学研究科の教育実践コラボレーション・センターに E.FORUM という 2000 名以上の教員が登録している教員研修用プラットフォームがあるが、その中の QTAL (Quality Teaching for All Learners) サイトの各種シリーズの中に「土の教育」を作る方向で準備が進んでいること、すでに土の教育を総合学習で実践している小学校の先生も複数名おられること、などについて詳しい説明があった。

2) 1) を踏まえた「土壌の健康」に関する意見交換

・すでに実践を始めている小学校の事例報告では、5 年生の児童が土のトピックスにとっても興味を持ちまた十分理解できていることが共有された。学習指導要領改訂と総合学習の活用が比較され、総合学習の方が詳しく説明できるためより「正しく」伝わるのではという意見があった。土の知識を食育・農業とつなげて理解することの重要性が指摘され、不耕起栽培などの現場圃場での教育実践が進んでいることが示された。日本土壌肥料学会の土壌教育委員会の長年の取組みや土の教育に関する科研費研究の成果などを E.FORUM と連携して発信していくことの有用性について共通認識が得られた。その際、個別トピックスの提示に留まらず土の重要性が理解できる大きな枠組みの中に個別トピックスを位置づける重要性も指摘された。実際には土に触れてこなかった教員も多くおられるという現状が確認され、食・農とともに防災の面からも土を紹介し得ることが指摘された。さらに、大学の農場実習でも土そのものを教えることはあまりないものの、自然や農業を支える土の役割を伝えることが重要性であるという高等教育の状況も共有された。

5. 報告事項

1) 意志の表出の書類について

現在依頼中の原稿の締切りが 10 月 30 日であることが確認された。

2) 今後の小委員会等の予定

<小委員会>

*第4回 2025年11月20日(木) 17時~19時 川嶋四郎先生(法学)との意見交換会

*第5回 2025年12月2日(火) 16時~18時 森口祐一先生(環境学)との懇談会
(いずれもオンライン)

<その他>

*公開シンポジウム『土の教育』始めませんか？

11月29日(午前)、土壌科学分科会主催、小委員会・E. FORUM 共催

*公開シンポジウム「今求められる水田の地力向上と病虫害・雑草防除を考える」

11月29日(午後)、植物保護科学分科会・土壌科学分科会・IUSS 分科会主催

6. 審議事項

1) 意志の表出の文章について、西岡委員と川嶋委員に、教育と法学に関する短文の執筆が依頼され、それぞれ承諾された。